ル建て替え

年度施工見込む

計画し
024
年度に
か進んでい
度に判明。
の塗装膜が
にプール層

へ落下したほか、給水管からの漏水が起きた。上屋は塩素でさびが進み、基礎部分から交換が必要な状況だ。

応急処置を施して授業に支障はなかったものの、根本的な問題解決にはプール槽も解体しなければならないため建て替えることにした。建設地を現地にするか、小学校敷地内の別の場所にするかは実施設計で決める。

6月補正で予算計上されれば、実施設計を指名通知し、入札する。解体も含め25年度に工事を進め、26年度から運用を再開する見込みだ。

千歳市内の介護施設にソファ寄贈

玉川組

玉川組（本社・恵庭）は14日、千歳市内にある介護施設「小規模多機能ホームえみなエルムの家」に介護用ソファ2台を寄贈した。金子裕之常務ら3人が施設を訪れ、糸田純子総合施設長に目録を手渡した＝写真。

施設からの要望に応えた。糸田総合施設長は「安全に気持ちよく利用者に使ってもらいたい」と話していた。

能登半島地震

復興支援

千歳市管工事業協組が義援金送る

千歳市管工事業協同組合は12日、能登半島地震で被災した石川県に義援金10万円を送った。日赤千歳市地区協賛委員会を通じて寄付した。

高野悠理事長、木村勝史専務理事、平野直樹理事が市社会福祉協議会を訪問。協賛委員会の沼田常好委員長に目録を手渡した高野理事長は「一日でも早く普段の生活に戻れるよう役立ててほしい」と話した。

札幌市

候補地は豊園保育園跡

移転の場合 共同利用館後継施設

札幌市民文化局は、アイヌ民族の伝統文化保存や生活相談の機能を持つ共同利用館を移転改築する場合の建設候補地として豊平区美園5条1丁目の豊園保育園跡地を挙げている。2024年度上半期（4―9月）に新施設の規模や建て替えの方向性をまとめる考えだ。

14日の市議会第1回定例会第1部予算特別委員会で、あおいひろみ氏（民主市民連合）が質問。田口繁治市民生活部長が答弁した。

白石区本通20丁目1の56にある共同利用館（W造、2階、延べ199平方㍍）は1978年の完成で、老朽化や駐車場不足が課題。再整備に向け、22年度にアイヌ施策推進委員会検討部会を立ち上げて協議を進めている。

同局は今後、推進委での議論を踏まえて施設の規模、現地建て替えか移転といった方向性を固め、アイヌ施策推進地域計画に反映させる。24年度末までに再整備の基本計画をまとめる。

札幌市

28年度の
ム北側
ーを新設
させる。
ほか、
った設備
定。池田
果につい
敵で混雑
るほか、
接続によ
やバリア
わいの創
した。

札幌ドーム23年度

赤字見込み幅が拡大

命名権早期契約目指す

札幌市スポーツ局の金谷泰亨スポーツ部長は14日の市議会第1回定例会第2部予算特別委員会で、株式会社札幌ドームの2023年度収支の赤字幅が計画より拡大するとの見通しを示した。ドーム命名権の早期契約などで経営状況の改善を図るとした。

和田勝也（自民党）、脇元繁之（大地さっぽろ）両氏の質問に答弁した。

収支計画では、23年度に2億9400万円の純損失となる見込みとしていた。ただ、コンサートの開催実績が7件と計画の半分にとどまり、貸館収入が予定を下回っている。ネーミングライツも契約に至っていないため赤字幅が広がる見通しだ。

金谷部長は今後の取り組みを説明。札幌ドームに計画の見直しを求めるほか、比較的小規模のコンサートが開ける新モード方式の利用促進を図る。

国の交付金を活用する場合は28年度までに供用を開始する必要があるため、遅くとも27年度に着工する考えだ。

設立45周年で祝賀会

札幌弱電設備業協組が総会

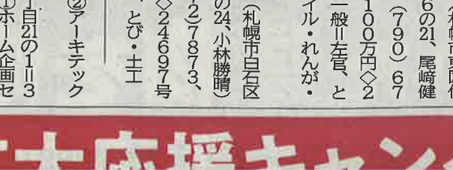
札幌弱電設備業協同組合（組合員23社、協力会員16社）は12日、ホテルライフォート札幌で通常総会と研修会、設立45周年記念祝賀会を開いた。市の新年度事業について確認したほか、今後も互扶助の精神で取り組みを進めることを誓った。

総会で2024年度事業計画を決めた。スローガンに掲げた技術の研さんや安全意識の高揚に向け、施工経験が豊富な企業と安全性、効率性に関する情報を共有する代理人ネットワーク会を継続開催。地域貢献活動などにも取り組む。

研修会では、市都市局建築部の天野雅之電気設備課長が講師を務めた。24年度工事発注額のうち同課所管分は約74億円、弱電に関わる通信工事は4件になるとの見通しを報告。週休2日や情報共有システム（ASP）の導入に取り組むほか、適正な工期・価格を設定する考えを示した。

設立記念祝賀会にはメーカーや市の担当者を含め62人が出席した。体調不良で欠席した下出浩理事長の式辞を横田圭介副理事長が代読。「建築物の長寿命化とSDGsに向け、将来にわたって市に喜んでもらえる仕事を提供し続けたい」とした。

来賓の中田雅幸交通事業管理者と中村範仁都市局長は、地下鉄駅の火災報知器や学校の校内放送など重要なインフラ整備に謝意を示し、まちづくりへの協力継続を求めた。田縁明弘設備担当部長による乾杯で祝宴に入り、1979年の設立から課題解決に取り組んできた歴史を振り返るとともに一層の飛躍を誓った。



排水機場点検整備
入札結果13件公表

札幌市下水道河川局

札幌市下水道河川局は、月寒など13件の排水機場点検整備・操作の入札結果を公表した。いずれも単価契約する。

2月21日に開札。それぞれ入札回数は1回、応札者は1社だった。

各入札の落札者は次の通り。（カッコ内は税抜き落札額）

▽月寒排水機場＝TENGU（1240万円）▽厚別排水機場農改＝極東サービスエンジニアリング北海道（819万5300円）▽山本排水機場農改＝プラント技販工業（736万6160円）▽厚別排水機場第1、第2＝プラント技販工業（1552万990円）▽山本排水機場＝石垣メンテナンス（1009万9800円）▽旧中の川排水機場＝荏原製作所（642万2200円）▽米里排水機場＝青木工業（713万7440円）▽ワラビ川排水機場＝石垣メンテナンス（914万1100円）▽富丘川排水機場＝石垣メンテナンス（1376万4140円）▽旧軽川排水機場＝日立インダストリアルプロダクツ（638万1100円）▽西宮の沢川排水機場＝鶴見製作所（932万9210円）▽新発寒桜川、新発寒向陽排水機場＝極東サービスエンジニアリング北海道（1184万5250円）▽救急排水機場＝ケンウン（1121万8475円）

建築申請

札幌市内

（①設計者②施工者）

西区

◆道建築指導センター確認分

◇個人

（6月2日）

▽宮の沢4条4丁目482の102＝2W108住新①丸佳建設②丸佳建設

（6月28日）

▽八軒8条西2丁目116の124＝2W113住新①ホーム企画センター②ホーム企画センター

（7月11日）

▽西町南16丁目21の1＝3W141住新①ホーム企画センター②ホーム企画センター

（7月13日）

▽山の手1条4丁目26＝2W122住新①アーキテックプランニング②アーキテックプランニング

▽西町南16丁目21の1＝3W141住新①ホーム企画センター②ホーム企画センター

（7月14日）

▽西野4条6丁目246の7＝2W103住新①三王建設興産②三王建設興産

（7月28日）

▽八軒5条東5丁目757の56＝2W106住新①協同住建②協同住建

▽八軒10条西4丁目178の53＝2W87住新①コスモ建設②コスモ建設

（8月2日）

▽八軒2条東4丁目653の146＝2W91住新①ホーム企画センター②ホーム企画センター

（8月4日）

▽発寒11条11丁目1020の552＝2W107住新①アーバンハウス②アーバンハウス

69人の巣立ち祝う

札幌工科専門学校 卒業証書授与式

学校法人常松学園札幌工科専門学校は14日、札幌サンプラザで第42回卒業証書授与式を開いた。建設業などエンジニアとしての道に進む卒業生69人に三上敬司校長が卒業証書を手渡した。

卒業生は2年制が環境土木工学科17人、造園緑地科8人で、北海道開発局やゼネコンに進む。1年制は測量情報科21人、環境土木・造園施工管理科23人が卒業し、コンサルを含む建設業で戦力となる。69人のうち、若手技術者育成のため企業が入学させた企業委託生は45人だった。

卒業生が三上校長（左）から激励を受けた

三上校長は式辞で、将棋界で活躍する羽生善治九段の言葉を引用。「何かに挑戦し、報われなくてもモチベーションを持ち続ける、それが才能だ」と伝え、卒業生を激励した。

来賓の柿崎恒美開発局長、仲井博之国土地理院北海道地方測量部長、吉村洋北海道森林管理局長、白石俊哉道建設部長が祝辞。社会基盤を支える技術の担い手、地域の守り手として期待した。

卒業生を代表して、環境土木工学科の立花咲月さんは「卒業生としての誇りを持ち、技術者として社会に貢献できるよう頑張りたい」と決意を述べた。

生徒の疑問や不安解消

札幌電気工業協同組合青年部 琴似工高で業界説明会

札幌電気工業協同組合青年部はこのほど、札幌琴似工高で生徒向けの電気工事業界説明会を開いた。電気科2年生の約45人が参加。仕事の魅力を知ってもらったほか、座談会を通じて疑問や不安の解消を図った。

人材確保につなげるため2018年から実施している取り組みで、今回は8日に開催した。小野寺徹副部長ら14人が高校を訪問。自然災害の激甚化が続く中での業界の役割や必要性を伝えた。

電気に関する雑学や社会人マナーのクイズをした後、座談会を実施。仕事内容など生徒からの質問に各部員が分かりやすく答えた。

小野寺副部長は「建設業はフレッシュな力が必要。将来を見据えて参考にしてほしい」と話した。

業界が果たす役割などを伝えた

建設業許可

石狩振興局

㈱ノジリ工業（札幌市北区篠路町345の15、野尻重夫）電011（775）6100、資本金500万円◇24691号▽一般＝建築、とび・土工

㈱中村板金店（札幌市南区藤野5条6丁目9の13、中村隆一）電011（835）3709、資本金200万円◇24692号▽一般＝屋根、板金

㈲モンキースタジオ（札幌市白石区東札幌2条5丁目8の21、岩間大輔）電011（832）5330、資本金300万円◇24693号▽一般＝内装仕上げ

HS設備㈱（札幌市北区屯田9条7丁目2の33、年代力康）電011（775）4990、資本金300万円◇24694号▽一般＝管

松岡工業㈱（石狩市樽川8条3の80、松岡勇介）電0133（77）8123、資本金100万円◇24695号▽一般＝土木、とび・土工、石工、鋼構造物、舗装、しゅんせつ、塗装、水道施設

㈱尾崎工業（札幌市東区伏古8条2丁目6の21、尾崎健治）電011（790）6773、資本金100万円◇24696号▽一般＝左官、とび・土工、タイル・れんが・ブロック

小林建設㈱（札幌市白石区北郷2382の24、小林勝晴）電011（872）7873、資本金30万円◇24697号▽一般＝大工、とび・土工

春の受注拡大応援キャンペーン2/13～3/31

新聞購読者様（1部につき5口まで）

十勝総振農業 24年度総合評価

技術教育 資格取得 金銭的支援を評価

若年職員育成等へ独自項目

【帯広発】十勝総合振興局整備課は、2024年度から適用する総合評価落札方式の評価項目の検討を進めている。全体の評価項目・配点に変更はないものの、地域選択項目の「技術職員の育成・確保」にある評価基準「若年技術職員の育成・確保」を同課独自項目として「技術者の育成・確保」に改定する予定。安定的な人材の確保と育成を目的に、採用後の技術教育や資格などの取得を企業が金銭的に支援することを評価するもの。配点は以前と変わらず0・5点となっている。

このほか、地域の守り手確保における地域選択項目では、23年度同様「緊急時の応急措置の実績」など4項目を継続する見込み。これらの評価項目については28日にも最終決定し、4月1日以降公告分から適用する見通しとなっている。

整備課は、道の総合評価ガイドラインおよび農政部の運用方針に基づき、地域選択項目や配点などについて検討。地域の意見を踏まえ、24年度は全体の技術評価項目や配点に変更はないが、地域選択項目の「技術職員の育成・確保」にある「若年技術職員の育成・確保」を同課独自項目として「技術者の育成・確保」に改定する予定となっている。

独自項目は、安定的な人材の確保と育成を目的に、採用後の技術教育や資格などの取得を企業が金銭的に支援することを評価するもの。配点は変わらず0・5点となっている。

また、担い手の育成・確保における地域選択項目では「技術職員の育成・確保」のほかに「新規の雇用」「高年齢者継続雇用」「女性の活躍支援」の3項目を設定予定。23年度と同様に「新規の雇用」と「高年齢者継続雇用」に各0・25点、「技術職員の育成・確保」「女性の活躍支援」を0・5点を配し、最大1・5点とする見通し。

一方、地域の守り手確保における地域選択項目は「緊急時の応急措置の実績」「季節労働者等の雇用実績」「地域企業活用」「地域経済活性化」の4項目を継続する見込み。配点については現行どおりとし「緊急時の応急措置の実績」のみ0・25点、その他3項目は各0・5点とし、最大1・75点の加点とする方針としている。

これに伴って、整備課では入札参加資格審査申請時の資料作成等の簡素化を図るため、きょう15日から技術評価項目の事前登録の受付を開始する。農業土木A等級の単体、経常JV構成員が対象。同課主査（団体管）宛ての郵送でのみ、27日到着分まで受け付ける。提出様式等は同課ホームページから。

今後の建設業界担って

札幌工科 第42回卒業式

学校法人常松学園（常松哲理事長）札幌工科専門学校（三上敬司校長）は14日、札幌サンプラザコンサートホールで第42回卒業証書授与式を挙行し、技術者の卵69人の門出を祝った＝写真＝。

道内唯一の土木系専門学校の同校では、測量士、土木施工管理技士など多くの資格を卒業と同時または有利な条件で取得できる。

技術者不足に悩む建設業界に対し、企業が社員を同校に委託生として入学させると、学費の一部を免除する「企業委託制度」も設置し、人材育成にも尽力している。

本年度の卒業生は、環境土木工学科17人、造園緑地科8人、測量情報科21人、環境土木・造園施工管理科23人の計69人。全卒業生のうち企業委託生は45人だった。

来賓や保護者、企業関係者が見守る中、卒業生代表に三上校長が卒業証書を授与。各種資格の認定証や日本測量協会会長賞などの賞状も贈った。

式辞で三上校長は、官公庁や企業に就職することとなった学生たちの頑張りをたたえるとともに、将棋棋士の羽生善治氏の「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦する。報われないかもしれないことに同じ情熱、モチベーションを継続できるのは非常に大変なことで、それこそが最高」との言葉を紹介し、今後も努力を重ねていくよう期待した。

来賓祝辞では開発局の柿崎恒美局長、道建設部の白石俊哉部長らが登壇。柿崎局長は「建設業界は先端技術を取り入れた魅力ある職場になろうとしている」と述べ「技術者としての自信と誇りを持って、建設業界を将来に向かって飛躍させ、北海道の明るい未来を切り開いていただきたい」と激励した。

白石部長は「変革期にある建設業界において、デジタル時代に生まれ育った皆さんは大いに活躍できるチャンスがある」と期待し「困難なことがあっても前向きな気持ちでチャレンジし経験を積んでほしい」とエールを送った。

最後に卒業生を代表し環境土木工学科の立花咲月さんがあいさつ。「札幌工科専門学校の卒業生としての誇りを持ち、学校で得たものを大切に、技術者として社会に貢献できるよう頑張りたい」と決意を述べた。

ほっかいどう学推進フォーラム

十勝地域の将来を考察

帯広市内で連続セミナー

【帯広発】認NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム（新保元康理事長）は9日、帯広市内のとかちプラザで第9回ほっかいどう学連続セミナーを開いた＝写真＝。46人が参加。「十勝再発見」をテーマに、発表やパネルディスカッションを通して、十勝地域の将来について考えを深めた。

セミナーは、北海道各地の魅力とそれを支えるインフラの価値を再発見し、それをどのように教育につなげるか議論するもの。

フォーラム副理事長で北海道開発技術センター理事長の倉内公嘉氏があいさつ。フォーラムの活動を振り返るとともに、十勝地域の特色のある文化に触れ「（セミナーについて）楽しんで聞いてほしい」と呼びかけた。

引き続き、帯広開建の神山繁次長が「十勝（生産空間）を支えるインフラ整備」をテーマに発表した。十勝地域における道路や河川、農業の整備など生活を支えるインフラ整備について紹介。整備内容や効果などを示すとともに、第9期北海道総合開発計画の柱となるキーワードに食料安全保障、観光、脱炭素などがあることを伝え「十勝はけん引していく地域。これからも支えていきたい」とした。

また、士幌町の高木康弘町長が「士幌町は人口減少にどう立ち向かっているのか」、士幌町立中士幌小学校の伊澤亮教諭が「人口減少対策を小学生が考える」、学校法人帯広葵学園認定こども園つつじが丘幼稚園の杉本伸子園長が「ほっかいどう学の魅力 十勝での展開」と題してそれぞれ発表した。

このあと、新保理事長をコーディネーターとしたパネルディスカッションを実施。パネリストには神山次長、高木町長、伊澤教諭、杉本園長が参加し、十勝地域の将来について意見を交わした。

研修会 水産土木の知識深化

道水産土木協会と渡島建協

【函館発】北海道水産土木協会（西村幸浩会長）と渡島建設協会（齊藤大介会長）は13日、函館建設業協会で2023年度水産土木工事現場代理人研修会を開催した＝写真＝。管内の水産土木工事を請け負う企業から、50人余りの技術者が参加。渡島総合振興局水産課の説明などを通じ、技術研鑽に要する知識の習得に努めた。

渡島総合振興局水産課の堤輔主幹は、渡島管内における23年の漁獲量と漁獲高が前年を上回ったことを喜ぶ一方、海水温の上昇に伴う不漁を課題として強く認識。水産生物に配慮した水産土木工事の推進が求められているとし「24年度も本年度と同程度の発注件数を予定している。円滑な事業執行に協力してもらいたい」と要請した。

渡島建協の山田晋市水産部会長は、地域経済を支える水産業の重要性に触れながら、水産土木工事に携わることの意義を強調。現場代理人の資質・能力向上を図る研修会を貴重な機会とし「知識の習得に励むとともに、労働災害を防ぐための基本的な行動についてあらためて確認を」と呼びかけた。

研修では水産課の職員が講師を担当。三賀森敬亮水産振興係長は「水産環境整備事業の役割」と題し、海域全体の生産量向上を目標に定めたマスタープランの内容や、管内の現状および課題を説明した。

齊藤花奈技師は、工事施工と工事書類作成の注意点を解説。契約締結や工事着手までのスキームを示し、パートごとのルールを再確認した。

引き続き、水産土木工事の優良事例として「津軽海峡地区えさん増殖場造成（近藤建設㈱施工）」の村田周司現場代理人、「噴火湾周辺地区鹿部大岩増殖場造成（吉・吉川・吉田事業所JV施工）」の佐々木利一現場代理人が発表。それぞれの施工手順や安全対策の取組などを説明した。

最後に、受発注者の意見交換を実施。日頃の課題や改善のポイントを抽出し、工事成果品の品質を確保するため、活発に意見を交わした。

札幌会場 9月18、19日

日本内燃力発電設備協会

可搬形発電設備の技術者試験

日本内燃力発電設備協会（平野正樹会長）は、全国8会場で実施する2024年度可搬形発電設備専門技術者資格試験の日程を発表した。札幌会場は9月18、19日の2日間、札幌市内かでる2・7で。

協会では、建設工事現場等で使用される可搬形（移動用）発電設備の現場への据え付け、運転管理、点検等の業務に従事する技術者を対象に、専門技術者資格の取得に向けた講習・試験を実施している。

受験資格は発電設備の業務に関する実務経験（3年以上）のある者。申し込み料は3万3400円（税込）。協会ホームページから受験書類をダウンロード、印刷し必要事項を記入の上、5月10日までに簡易書留で申し込む（当日消印有効）。

申し込み、問い合わせは同協会・〒105－0014東京都港区芝1丁目5－11芝L、sビル、電話03（5439）4391まで。

竹中JV現場に無災害表彰授与

札幌中央労基署 21日表彰式挙行

札幌中央労基署は、建設業無災害表彰事業場を決定した。受賞現場は竹中・岩田地崎・伊藤建設JV施工の「札幌第一生命ビル新築」。表彰式は、21日午前10時から札幌第1合同庁舎で執り行う。

能登半島地震 被災地支援

TEC－FORCE きょう15日に出発式

【網走発】網走開建はきょう15日午前11時から、本部庁舎別館で北陸地方整備局管内へのTEC－FORCE派遣に伴う出発式を執り行う。

17日に高度技術指導班（水道）の職員2人の派遣を予定している。

網走開建